

ブレーメン自転車展 (fahrrad.markt.zukunft.) 参観報告 及びブレーメン市内自転車小売店調査

1. ブレーメン自転車展 (fahrrad.markt.zukunft.)

ドイツ国内北部地域のユーザー向け標記自転車展は本年もアウトドア展と合同でブレーメンの見本市会場にて開催された。

【fahrrad.markt.zukunft. (Bremen)】

主催： Messe Bremen、velokonzept saade GmbH

会場： Messe Bremen

会期： 2010年3月13日(土)、14日(日) 10:00~18:00

使用ホール： 自転車；ホール5、アウトドア；ホール4,6

入場者数： ※18,000人(前年12,417人)

出展社数： ※147社(昨年128社)

※入場者、出展者はともに両展示会合計数値



メッセ・ブレーメン



ホール5の試乗コーナー

出展社数は、自転車展とアウトドア展で合計147社、前年より約15%増、来場者数は同じく合計18,000人と前年比45%増となった。しかしながら、ホール5には旅行観光関連の出展者や試乗コース等も含まれ、昨年と比べて自転車関連出展者が増えたという印象は無く、昨年と同規模であった。今回来場者数が増加したのは、今年から追加されたホール6のスポーツ用品関連出展社増等による寄与が大きいと見られる。

自転車関連出展社としては、ブレーメン周辺に店舗がある自転車小売チェーンのStadlerやB.O.C.の大きなブース等、いくつかの自転車小売店ブースが見られた。出展ブランドではコガ、ウィノーラ及びベルガモント等が見られた。スポーツ車では、キャノンデール、フォーカス及びidwork等で、部品・付属品の多くは小売店ブースを通じた小規模展示が多く、独自参加はタイヤのコンチネンタルとシュワルベ、鍵のABUS等であった。

全体の展示規模は昨年並みであったが、電動アシスト自転車の出展数は確実に増えていた。前述のコガ、ウィノーラの他、フライヤー、ジャイアント、ビクトリア、ラリー/カークホフ及びケトラーなど幅広く、ホール内の試乗コースでは電動アシスト自転車に乗る来場者の姿

も見られた。

同展は来年も同所にて 2011 年 3 月 12 日、13 日の両日開催予定である。



自転車小売チェーンのブース（左；Stadler、右：B.O.C.）



ベルガモント



ビクトリア

2. ブレーメン市内自転車小売店調査

調査実施日：平成 22 年 3 月 12 日（金）及び 13 日（土）

訪問地域：ブレーメン市内中心部

調査店舗①

最初の訪問はスポーツ車専門店であった。ビアンキを中心にロードレーサー 20 台、フェルトを中心に MTB 及びトレッキング車は 30 台程展示されていた。スポーツ車関連の部品、付属品も充実していたが、電動アシスト自転車の取り扱いはなく、今後もその予定はないということであった。



調査店舗①



自転車売り場



部品、付属品も充実



調査店舗②

次は中央駅からトラムで10分程の場所にある、シティ車、トレッキング車が中心の中規模店を訪問した。VSF Fahrrad（独自自転車小売組合ブランド）を中心にシティ車とトレッキング車を計100台、MTB50台程、電動アシスト自転車はフライヤーが3台展示されていた。同店は広告宣伝を一切行わず、口コミのみで地域の顧客を取り込む経営方針であり、今後も地域密着の店舗づくり行くと店主は語っていた。



調査店舗②



付属品等のコーナー



店内の自転車売り場の様子

調査店舗③

次はシティ車、トレッキング車が計 70 台程展示してある BICO (独自転車共同購入団体) 加盟店を訪問した。スポーツ車は、フレーム・カラーが黒の STEVENS を中心に 30 台程、電動アシスト自転車は R&M 等が 7 台展示されていた。電動アシスト自転車は、昨年 1 種類しか取扱っていなかったが、今年は一気に 6 種に増やしたということであった。また、屋外にはダッチバイク等のシティ車、MTB 類型車が 20 台程展示されていた。



調査店舗③



屋外に展示された自転車



黒フレームが多いスポーツ車コーナー



電動アシスト自転車

調査店舗④

更に中央駅からバスで 15 分ほどの距離にあるオリジナルフレーム車を販売する店舗を訪れた。黒のフレーム・カラーの人気の高い同地域に於いて、ブランドの特徴を出し他社と差別化を図るため、敢えてオレンジや紫などの明るい色を推奨しており、どのような色にも対応できることを色見本を示し説明してくれた。取扱い車種は、スポーツ車中心で電動アシスト自転車の展示はなかった。



調査店舗④



店内の様子



スポーツ車が中心

調査店舗⑤

最後に上記店舗④から徒歩 10 分程の距離にある小型店舗を訪ねた。Contura、ラリーやオリジナルブランドのシティ車、トレッキング車を中心に店内に 50 台程展示してあり、欧米の有名ブランドの高級スポーツ車は見られなかった。電動アシスト自転車は、ラリーが 1 台のみであった。



調査店舗⑤



修理を待つ自転車



店内の様子



3. まとめ

ブレーメンにおいても全般的に黒いフレーム・カラーの人気が高かった。車種もシティ車、トレッキング車が中心であり、同市の消費者嗜好はハンブルクの場合と類似しており、ドイツ北西部の自転車市場動向を知る上で興味深い結果であった。

また、電動アシスト自転車については、まだ販売が始まったばかりという印象があるが、従来から移動手段として自転車利用が盛んであるブレーメンでは、潜在的な需要層もあると思われる、同車種の利便性が周知されれば、その普及が進む可能性もある。

以上

(デュッセルドルフ事務所)



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。

